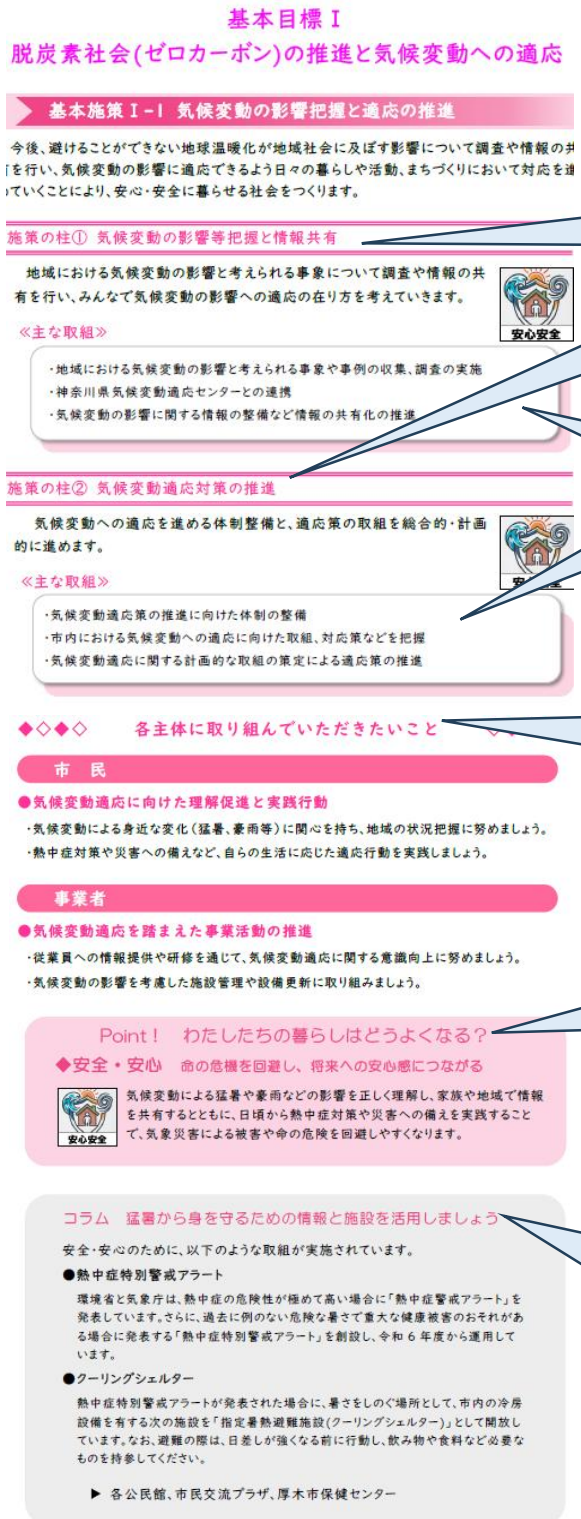
第3章　具体的な取組

ここでは、次頁以降の見方を示しています。
「目指すべき環境像」を実現するための施策を次頁以降に示します。



基本目標Ⅰ
脱炭素社会(ゼロカーボン)の推進と気候変動への適応

基本施策Ⅰ－1　気候変動の影響把握と適応の推進

今後、避けることができない地球温暖化が地域社会に及ぼす影響について調査や情報の共
を行い、気候変動の影響に適応できるよう日々の暮らしや活動、まちづくりにおいて対応を進
ていくことにより、安心・安全に暮らせる社会をつくります。

施策の柱①　気候変動の影響等把握と情報共有

地域における気候変動の影響と考えられる事象について調査や情報の共有を行い、みんなで気候変動の影響への適応の在り方を考えていきます。

安心安全

≪主な取組≫

・地域における気候変動の影響と考えられる事象や事例の収集、調査の実施
・神奈川県気候変動適応センターとの連携
・気候変動の影響に関する情報の整備など情報の共有化の推進

施策の柱②　気候変動適応対策の推進

気候変動への適応を進める体制整備と、適応策の取組を総合的・計画的に進めます。

≪主な取組≫

・気候変動適応策の推進に向けた体制の整備
・市内における気候変動への適応に向けた取組、対応策などを把握
・気候変動適応に関する計画的な取組の策定による適応策の推進

◆◇◆◇　各主体に取り組んでいただきたいこと　◇◆

市　民

●気候変動適応に向けた理解促進と実践行動

・気候変動による身近な変化（猛暑、豪雨等）に関心を持ち、地域の状況把握に努めましょう。
・熱中症対策や災害への備えなど、自らの生活に応じた適応行動を実践しましょう。

事業者

●気候変動適応を踏まえた事業活動の推進

・従業員への情報提供や研修を通じて、気候変動適応に関する意識向上に努めましょう。
・気候変動の影響を考慮した施設管理や設備更新に取り組みましょう。

Point！　わたしたちの暮らしはどうよくなる？

◆安全・安心　命の危機を回避し、将来への安心感につながる

安心安全

気候変動による猛暑や豪雨などの影響を正しく理解し、家族や地域で情報を共有するとともに、日頃から熱中症対策や災害への備えを実践することで、気象災害による被害や命の危険を回避しやすくなります。

コラム　猛暑から身を守るための情報と施設を活用しましょう

安全・安心のために、以下のような取組が実施されています。

●熱中症特別警戒アラート

環境省と気象庁は、熱中症の危険性が極めて高い場合に「熱中症警戒アラート」を発表しています。さらに、過去に例のない危険な暑さで重大な健康被害のおそれがある場合に発表する「熱中症特別警戒アラート」を創設し、令和６年度から運用しています。

●クーリングシェルター

熱中症特別警戒アラートが発表された場合に、暑さをしのぐ場所として、市内の冷房設備を有する次の施設を「指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)」として開放しています。なお、避難の際は、日差しが強くなる前に行動し、飲み物や食料など必要なものを持参してください。

▶ 各公民館、市民交流プラザ、厚木市保健センター

基本施策のうち、取組の柱の方針を示しています。

施策の柱に基づいた具体的な取組を示しています。

各基本方針について、市民・事業者・市がどのようなことに取組や事業活動を行うべきか示しています。

施策の柱、取組みによって、
市民の暮らしがどのように良くなるかを示しています。

「わたしたちの暮らしはどうよくなる？」に対し、どのような取り組みがあるか紹介するコラムや、
具体的にどのような効果があるか解説しています。

基本目標Ⅰ
脱炭素社会(ゼロカーボン)の推進と気候変動への適応

基本施策Ⅰ-1　気候変動の影響把握と適応の推進

今後、避けることができない地球温暖化が地域社会に及ぼす影響について調査や情報の共有を行い、気候変動の影響に適応できるよう日々の暮らしや活動、まちづくりにおいて対応を進めていくことにより、安心・安全に暮らせる社会をつくります。

施策の柱①　気候変動の影響等把握と情報共有

地域における気候変動の影響と考えられる事象について調査や情報の共有を行い、みんなで気候変動の影響への適応の在り方を考えていきます。



≪主な取組≫

・地域における気候変動の影響と考えられる事象や事例の収集、調査の実施
・神奈川県気候変動適応センターとの連携
・気候変動の影響に関する情報の整備など情報の共有化の推進

施策の柱②　気候変動適応対策の推進

気候変動への適応を進める体制整備と、適応策の取組を総合的・計画的に進めます。



≪主な取組≫

・気候変動適応策の推進に向けた体制の整備
・市内における気候変動への適応に向けた取組、対応策などを把握
・気候変動適応に関する計画的な取組の策定による適応策の推進

◆◇◆◇　各主体に取り組んでいただきたいこと　◇◆◇◆

市　民

●気候変動適応に向けた理解促進と実践行動

・気候変動による身近な変化（猛暑、豪雨等）に関心を持ち、地域の状況把握に努めましょう。

・熱中症対策や災害への備えなど、自らの生活に応じた適応行動を実践しましょう。

事業者

●気候変動適応を踏まえた事業活動の推進

・従業員への情報提供や研修を通じて、気候変動適応に関する意識向上に努めましょう。

・気候変動の影響を考慮した施設管理や設備更新に取り組みましょう。

Point！　わたしたちの暮らしはどうよくなる？

◆安全・安心　命の危機を回避し、将来への安心感につながる



気候変動による猛暑や豪雨などの影響を正しく理解し、家族や地域で情報を共有するとともに、日頃から熱中症対策や災害への備えを実践することで、気象災害による被害や命の危険を回避しやすくなります。

コラム　猛暑から身を守るための情報と施設を活用しましょう

安全・安心のために、以下のような取組が実施されています。

●熱中症特別警戒アラート

環境省と気象庁は、熱中症の危険性が極めて高い場合に「熱中症警戒アラート」を発表しています。さらに、過去に例のない危険な暑さで重大な健康被害のおそれがある場合に発表する「熱中症特別警戒アラート」を創設し、令和６年度から運用しています。

●クーリングシェルター

熱中症特別警戒アラートが発表された場合に、暑さをしのぐ場所として、市内の冷房設備を有する次の施設を「指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)」として開放しています。なお、避難の際は、日差しが強くなる前に行動し、飲み物や食料など必要なものを持参してください。

▶ 各公民館、市民交流プラザ、厚木市保健センター

基本施策Ⅰ-2 エネルギーを有効活用する社会の構築

再生可能エネルギーの活用や省エネルギーへの取組などにより、エネルギーが有効に活用され、地球温暖化対策に貢献できる脱炭素社会を目指します。

施策の柱① 再生可能エネルギーの有効活用の推進

再生可能エネルギーの導入と有効活用を進め、地域におけるエネルギーの自立・分散化と脱炭素化を推進します。



≪主な取組≫

・自立分散型エネルギーとしての再生可能エネルギーの活用促進
・住宅用太陽光発電や蓄電池等スマートハウス導入奨励金による普及促進
・電気自動車(EV)の導入促進
・ペロブスカイトなどの次世代技術の先行導入に向けた調査検討

施策の柱② 省エネルギーの普及・促進

省エネ行動や省エネ設備の普及を進め、エネルギーが効率的に利用される社会を目指します。



≪主な取組≫

・デコ活の普及啓発
・省エネルギー設備・機器の導入促進

◆◇◆◇ 各主体に取り組んでいただきたいこと ◇◆◇◆

市　民

●再生可能エネルギーの活用と省エネルギー行動の実践

・住宅への太陽光発電設備や蓄電池の導入を積極的に検討しましょう。
・冷暖房の適正利用や節電・節水など、継続的な省エネ行動を実践しましょう。

事業者

●脱炭素経営に向けたエネルギー利用の推進

・EV導入を進め、業務活動における温室効果ガス排出量の削減に努めましょう。
・省エネルギー診断や環境マネジメントシステムを活用し、継続的な改善を図りましょう。

Point！　わたしたちの暮らしはどうよくなる？

◆経済的　エネルギーを賢く使うことで、家計負担の軽減につながる



- 住宅への太陽光発電設備や蓄電池の導入、冷暖房の適正利用や節電・節水などの省エネ行動を実践することで、電気代やガス代などの光熱費の削減につながります。
- 再生可能エネルギーへの理解を深め、自家消費を進めることでエネルギーコストの負担軽減が期待でき、家計にゆとりをもたらします。

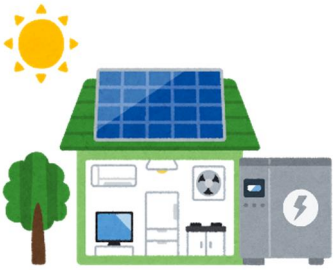
◆安全・安心　エネルギーを蓄える行動が、非常時の安心につながる



- 住宅への太陽光発電設備や蓄電池の導入、省エネルギー行動の実践、再生可能エネルギーに関する知識の向上は、災害時の停電やエネルギー供給の不安に備える力を高めます。
- 平常時からエネルギーの自給・自家消費を意識することで、気象災害などによる生活への影響を軽減し、命や暮らしを守る安全性の向上につながります。

具体的にはどんな効果があるの？

〇太陽光・蓄電池を導入すると・・・



住宅への太陽光発電設備や蓄電池の導入は、発電した電気を自宅で有効活用することで光熱費の削減につながります。
また、災害時の非常用電源として暮らしの安心を高めるほか、電力需要のピーク抑制や再生可能エネルギーの有効利用を通じて、地域全体のエネルギーの安定化にも貢献します。さらに、EV との連携による利便性向上も期待でき、家計のゆとりと快適で持続可能な暮らしの実現につながります。

〇断熱窓に転換すると・・・



断熱窓への改修は、住宅の熱の出入りを抑えることで冷暖房効率を高め、電気代やガス代などの光熱費削減につながります。また、夏の暑さや冬の寒さを和らげるほか、結露抑制やヒートショック対策にも効果があり、快適で健康的な住環境の実現に貢献します。